

タイトル	(和文)「新シルクロード」沿線における内陸地域の経済発展に関する一考察 –新疆ウイグル自治区と中央アジア諸国の貿易構造分析– (英文) An Analysis of Trade Structure between Xinjiang Uyghur Autonomous Region and Central Asia for Economic Development		
(フリガナ) 氏名	マエノ タカアキ ヤスダ トモエ 前野 高章 安田 知絵		
キーワード (3語)	新シルクロード、内陸地域の経済開発、 新疆ウイグル自治区の貿易構造	ご所属	日本大学
(和文要旨 40字×5行 200字以内) 本研究では「ビーズ型」開発戦略モデルをもち、新シルクロード沿線地域に位置する新疆ウイグル自治区と中央アジア諸国との間の貿易構造の分析から内陸地域の経済発展の可能性について考察する。分析にあたり、中国の省レベルでの国際貿易データを使用し、中国内陸部の新疆ウイグル自治区の貿易構造の特徴を捉え、産業都市間リンケージの形成が内陸地域の経済開発の重要な要因となることを考察する。			
(和文報告概要 40字×40行 1,600字以内) 海港をもたない内陸国(landlocked countries)は海港をもつ沿岸国(non-landlocked countries)よりも相対的に経済発展が遅れている地域が多く、その要因としては内陸国が直面している高い貿易障壁があげられる。内陸国という地理的要因が国際貿易の拡大を阻害している主要因であるということはこれまでに多くの実証研究が蓄積されてきた(Limao&Venables,1999; Coulibaly&Fontagné,2004; Shepherd&Wilson,2006; Behar&Venables,2010 など)。しかしながら、グローバル化が加速することにより多方面において貿易障壁が低下することにより、国際貿易の拡大から経済成長を達成してきている内陸国もある。 井尻・前野(2020)は内陸国である中央アジア諸国の貿易構造に着目し、中央アジア諸国は純粋に貿易がない状態から貿易が開始された貿易品目(newly traded products)を精査することから中央アジア諸国の貿易構造の変化の分析を試み、独立以後の貿易障壁の低下により、輸出よりも輸入の方が相対的に多くの新規取引を行っていることを明らかにし、内陸国の貿易構造と貿易コストの関係性を考察している。グローバル経済において国際貿易の拡大による経済的恩恵は情報通信技術および輸送技術の向上やインフラの改善といったハード面での環境の変化に起因しているだけでなく、二国間の自由貿易協定やより広域におよぶ経済連携といったソフト面での制度的・政策的変化にも起因している。特に、地理的な経済的障壁が大きい内陸国が経済発展を促進させるには、これら両面からの貿易障壁を撤廃することから国際貿易を拡大させることが必要となる。本研究は中国の内陸部に位置する新疆ウイグル自治区とユーラシア大陸の中央に位置する中央アジア諸国の貿易構造を			

分析することから、内陸国および内陸地域の経済発展の可能性を考察する。本研究で用いる「新シルクロード」は連雲港から中央アジア地域および EU 地域までの陸路の経済ベルトを意味しており、本研究は「新シルクロード」沿線の内陸地域の経済発展に関する研究である。

中国は国際貿易の拡大による経済成長を促進させ、今では世界貿易に占める貿易規模は 10% を上回るまでに至り世界市場における経済的地位を確立させた。中国の国際貿易の拡大は東アジアで見られる工程間分業の影響が大きく、中間財貿易の域内貿易の拡大と世界市場への最終財の供給から経済の相互依存の度合いが加速し、世界市場での GVCs(Global Value Chains)の確立に繋がった。工程間分業の促進により中国は著しい経済成長を成し遂げたが、それとは裏腹に内陸地域の経済発展は取り残されたまま、沿海部と内陸部の経済的格差は鮮明に拡大した。加藤(2003)によると、沿岸部における産業集積の経済には、外資が決定的な役割を果たしているが、初期条件やその他要因によって外資の取り込みに成功しなかった内陸部は経済開発が相対的に立ち遅れた。中国政府は 2000 年以降から内陸部の経済開発を目的にインフラ整備を中心に西部大開発を行った。中国の中西部への経済発展に関する研究として本多他(2007)、呉(2011)、Tsuji et al.(2015)などがある。彼らは中国内陸部への現地調査をもとに、中国内陸部の自律的な循環的開発プロセスを実現することを可能にするには工業成長拠点都市群（「ビーズ型」産業都市群）の形成が重要な要因となることを分析しており、内陸地域の経済発展にはインフラ整備だけでは不十分であり立地優位性や輸送競争力の形成につながる開発戦略が必要であることを明らかにしている。

本研究は、中国西部に位置する新疆ウイグル自治区の経済的側面に着目し、「ビーズ型」開発戦略モデルにおける内陸地域の経済開発の重要な要素である産業都市間リンケージの形成に関する研究である。中国の辺境地域は隣接国との取引が相対的に多く、さらに国内市場と海外市場を接続する役割を担っている。新疆ウイグル自治区は中央アジア諸国との貿易の窓口であることから、新疆ウイグル自治区の対外貿易構造を分析することは内陸地域の開発戦略モデルの再考察に繋がり、産業都市間リンケージの形成への政策的含意を導くことが期待できる。